

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	博物館資料の整理・登録と活用事業	会計	一般会計	事業No.	832	施策順No.	62-009	
		事業種別	政策・その他	予算科目	10-5-6-11-1			
政策	6 地域の自然・歴史・文化を活かし続けるまちづくり			課等名	美術博物館			
施策	62 地域資源の資産化			事業期間	開始	21	終了	23

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	整理・登録を必要とする分野						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		整理・登録を必要とする分野(件)			4	4	4	
	意図	整理し公開・活用のための基盤を整備する						
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	完成する目録等の分野件数			4	4	4	4	A
	整理・登録を行う臨時雇用者(人数)			4	11	11	12	
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	緊急雇用事業を有効に活用して資料の整理が順調に進んでいる。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	<ul style="list-style-type: none"> 「緊急雇用創出事業補助金」(補助率10分の10)を活用する。 現下の雇用失業情勢に鑑み、離職を余儀なくされた非正規労働者、中高年齢者等の失業者に対して、雇用までの短期の雇用・就業機会を創出・提供する。 美術博物館ならびに考古博物館において、通常業務で積み残しになっている博物館資料の整理を推し進め、公開・活用の基盤となる資料・データを整備する。 学芸事業の広報に努め、学校等との連携関係を構築する。 		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1 整理し公開・活用を図る業務 ①広報業務・ホームページ用データ整理、英語版パンフレット刊行など、 ②美術品・藤本四八写真フィルムの整理・登録、 ③来遊画家のデータ整理、 ④人文資料・柳田國男館・日夏歌之介コレクションの整理・登録、 ⑤自然標本の整理・登録、 ⑥考古資料(土器)の復元 2 雇用形態(月20.5日 6ヶ月+6ヶ月) および人数 ①~⑥9名 3 雇用形態(月15日 6ヶ月+6ヶ月) および人数 ⑥2名 4 雇用期間 4月~9月、10月~3月 5 公開する目録 ①美博パンフレット英語版2種類、 ②報告書『地方誌「南信」における美術関連記事』	1 整理し公開・活用を図る分野数 2 人数(月20.5日) 3 人数(月15日) 4 雇用期間 5 公開(印刷等)する目録数	1 6分野 2 9名 3 2名 4 6ヶ月+6ヶ月 5 3件
23年度実施計画	1 整理し公開・活用を図る業務 ①広報業務・ホームページ用データ整理など、 ②学校利用促進など ③館蔵資料データ管理システムへの入力、 ④美術品・藤本四八写真フィルムの整理・登録、 ④来遊画家のデータ整理、 ⑤人文資料・柳田國男館・日夏歌之介コレクションの整理・登録、 ⑥自然標本の整理・登録、 ⑦考古資料(土器)の復元 2 雇用形態(月20.5日 6ヶ月+6ヶ月) および人数 ①~⑥10名 3 雇用形態(月15日 6ヶ月+6ヶ月) および人数 ⑥2名 4 雇用期間 4月~9月、10月~3月 5 公開する目録 ①学校利用促進ガイド、 ②資料目録・翻刻集	1 整理し公開・活用を図る分野数 2 人数(月20.5日) 3 人数(月15日) 4 雇用期間 5 公開(印刷等)する目録数	1 7分野 2 10名 3 2名 4 6ヶ月+6ヶ月 5 2件

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項 [22特定財源] (県) 緊急雇用創出事業補助金10/10 [23特定財源] (県) 緊急雇用創出事業補助金10/10
	国庫支出金					
	県支出金		23,376	23,373	26,037	
	起債					
	その他					
一般財源						
計 (A)		23,376	23,373	26,037		
正規職員所要時間						
臨時職員等所要時間						
人件費計 (B)				0		
トータルコスト A+B			23,373			

4 事業に対する市民や議会の意見

雇用・就業の機会を求める声が高まっており、採用面接には多くの市民が押し寄せる。

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	地域資源が見出される。	施策の成果指標又はムトス指標	見出される地域資源の数(累計)
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	未整理・未登録資料の整理が飛躍的に進み、地域資源の資産化が進んだ。		
	後期に向けた課題	これまでの事業に加えて学校利用促進を図ることで、地域資産の活用をどう推し進めるか。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をしてみましたか	4年間の振り返り	各分野ごとに課題解決に向けて取り組んだ。		
	後期に向けた課題	事業の残り期間を鑑みて、選択的に効率よく進める必要がある。		
コストを削減するためにどのような工夫をしてみましたか	4年間の振り返り	適切なデジタル化により、コストを抑える。		
	後期に向けた課題	今後も同様である。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	市が緊急雇用創出補助金の受け皿となって進めるため、適切である。		
	後期に向けた課題	今後も同様である。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをしてみましたか、又は、配慮してありましたか	4年間の振り返り	平成21年度からのべ30名の緊急雇用者に仕事を提供した。		
	後期に向けた課題	緊急雇用創出事業による雇用の場の提供は平成23年度までである。		
全体を通じて	4年間の振り返り	資料の整理・登録が飛躍的に進んだ。きめ細かな広報活動ができるようになった。		
	後期に向けた課題	現在の活動を緊急雇用創出事業終了後どう繋げていくかが課題である。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input checked="" type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	----------------------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	-------------------------------	--------------------------------	----------------------------------------------